別13
23
別圖

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』 請求記号 本別13-23

ガラス使用

わたさかもり

相撲乃ゐの值人さぐのうりうは一門九十
三歳をひさぐして山ちゆくうりう長者
乃富而ようらうりうく秋日三月九さうもりの
はをしろふしてさうさう巻きらやうどやえうの
てぐしうう夏なる巻四ようちゆうちゆんみよせ
きくあひとやてうにをとらあゆうらんを
十八人をぐりて和田とのとをてをせとさ巻
たまぐ乃ふぐんどういさよなすわうう
はうひ拔ようそくめさ弓一変のはうひす

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』　請求記号 本別13-23

ガラス使用

まいりをこ乃度ハ事せん三度ゆも成
ちらはまこ大きふこをうて美ゆ祝こ祝て
そそちらにかんてうゆとゆくとや義別り
ちゆ御別ようりなんとうちよりく
さらまりをせんとちに人をよだすとゆあひ
しやくをとり今度うををうひすいさん
せんこうかんまそあるつきよめりくめすに
おあくねとらいかりきのこのうゆ山ゆ四祝
りそまとりへあきりゆとをりらん参ら

とくらやうじやあのこ　ぜひなりやく
ぶうりきんと男ぶ　めしとぐぜのわたり
きろ一男とくらへ　ちいりちやうしをあさ
てくの海りくいりふ　ぐぜたらひまん
くの事あとも共今　まぐの海へそ
しやくとりく三浦へ　そまぬちん
のあさよせ流うけ　去よその男ぜをく夏い
大事うてのくずや　とくぜとそおりせ
きりとくのこをと　をくくりえあくうて
のとくのやきんむい　二君ふたりへを

鄭女ようぬりまくこうにとりんをむこそ
さくへをけをりふきいやくしく助成を
引うへてさよけいあくあくんとやぬひを
よくねるくへ　とくいもりをたくう
くふをくのくさくちくりをこあ鑑舎よ
くへともやさせ流へくうへとめせくを
とくをりてさりきり　母のちやうちやふ松
のくくふすへ　ぬくいふくくせさく流へ
ひくをぬやうりうあ　くをぬとくせ
流くさうすをくそきゆうを母ようを

打ぢえをはかるすべもなくてこのるぢえの法師とそ
なくちんのまうそういたくこの法師ひ想とて
とぢるらねたいぢのあるうんるぢをくひろよ
ゆきくうさんうりぢたうんるさふふ
なうわきりちよてんあまきをあくまくふひ
宮のうろよたけのみ三ちんまてそぢたうろ
あひをとりてうりハ十よあまりうろ毎
乃物ひをそけうとうけうりるまり
きよいちくを座あひ明ひ我をぢたうり
うりまんとうりきうるのたりをころ物

乃うまをかりいくに二変ちやうしやり成と
きくさまあや人乃みのうるいるいみやとを
た物をあろをちうこいりんちんうりも
いく成物うたういのそうるうちれくく
とと成をよをなぢうけかふてまうけたり
二百七十余日をういるのいこの座うり物りけ
あをのまの書中九ちんのぢ毎うどへ第ろ章を
ゆうふ座くく人みまきくふをときのくろ
みいいきううう乃うを成ぢうき　せんうう
うち乃き中へ　をひいるるまうへうう

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』　請求記号 本別13-23
ガラス使用

きんとうそぜんのようものの数をかさ
ねてをめりゐ夏三伏のなつけ難い松風よ
たゝぬ姫達をそゝふく風をまち給ふをよそ
さんー　扨ゝくめり　三歳みうち迄のを
ぢらゆうこゝろん姫いそちうをさそかこぶけ
すくを歌るいうんとくぜんのうさりうすて
ちゐりかうんなむしてゐ給ふよをそ一面
八十石よちうさうくひこと口ゐり扨きうくとさい
ちうきかゝいちくのゐんちゐくひいたけ
ゐんかうじてをかうじうさハ文のゐんと

ゝきたりしやしてをしやーかうさい
をくのゐんとをれうりちゐんりうゐくを
ちゐをぜん姫姫ゐんちむゐよ大海の門まで扨
かうーけくをへさそやゐとゝゝをせゝ今
りをくゝきのおをてしやくとゐく三ゝへ
をし給へをゝきさるきをのるゝ給をゝうして
あのすゝ毛のむまゝくゐんくゝちゐをていゐく
をゝゝりをゐきまをそ比ちゐゆくかゐひと四ひ
をくまり給へとあゝゝりにの給ひてゝりやう
しやゝきへな扨られちゐ所をのくゝあ

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』　請求記号 本別13-23
ガラス使用

めいめんかくるふをそうこきをん　をけのり
さうづんうるんさ城うへそき天人のゐ
をいんるゐ八君とて八門のをれあうを中ふ
わくきうひんくかくをのう爽事いこのも
わくし部んをとふもなりぬまは考うさ
るうをうとふ有ううとき人ゆはいゆしまき
うんかのもうを城そあさまは仏はそうとを
をやうせん物ゆとり　者きはを三かうれふせ
とををこるをひや見きゆん考ふまいう
物をなくうむかくをあ　ふ座くうん座よ

はくなりてあろいうう考ふ人よすくれて
男へるかうひのきわを分よきう孫をうう見
はゆ見てそれうきくろふうのめろすけなり
るんとうこのこうもんするゆうんををそ
らくいあの委系うぶんとてゆうんおせ
さうをりせむるんこくいをうきとをうふ
ふうう人をうるーさみひう結よむ角く
うてらひをゆきり　きらくよくるるう
ひ也　世をを人ををくすのうものくうむ
をきゆくるーやとそうんくまいそ孫む地成之

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』　請求記号 本別13-23
ガラス使用

わたさかもり

うをしあてくるまくらかの幸をる

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』 請求記号 本別13-23

ガラス使用

とうしゆうにて成きくまるとも十郎屋い物事と
伯さまの海そむりのの人うめ丸くさまの海う
果方さくう九ふざいうつられ八月嚴島うち
くとこやうの二方さいと物ありの物きなの一
ふさいこふさいをつるとけかさつへとる
をのこゆくいまいみん　あとをふつちるん
て　きふのらくこそ　うきけき　こく
ろくとるうこきはふるをけうもさけ
一一人面一きたもつのふきういかう海ら
こるさこくいの門きけ委とうこり

きり　朋成きこめきれてあう屋これ女
のここもやか狂屋さきゆうこんを産業へ
りこわものすけ若者のここふつかり
屋こと思ふりふとここ世こいまの玄義い
やきふけきもこせくこんこるここうい
こるこる成このりくはう変ふちふこと
ものはやの海きうと物世らく事ハ
きくこるこきんうい張いこきひこきり
きん婦の活右をきんちう地狩とや狩きうん
てこひ終ふこういをいこそひくきりこきる

いろかとをときそそと同法人と地獄あらんて
はるくしのこの山よりとあるを一ぢうを紙
ろ紙をうるをなぜうろくいの家にををき
をのかりあやのふけう紙ぬきうのうんうう
をうりうりうりのとあるうとき大地のまれ
てみのいをたをあるりのあまもう走こそ河を
まを走紙ろへしそこのうろ川を生を
ゆんしし地獄のゆう色よ　七人の鍋を河川
るうりうへうしとのうを海へうあやくそん
を河をを仏を世乃ちよろ川うちあを紙ぬのひ

てをゆうう法よ　みみちやうとりいみのさのを
乃ちいをりんみ一しや物ちくさがん天ほう
二しやういしやくを三ぶ物ほうほちやこん
ほんちゆうほうみしや佛ちんとをれさり三
ちうとやちいけるきと紙又毋れ家とそ紙
紙ゆを物をゆやまちをうみを一川わうくさ
うんうう時いゆ月をのりへとそりへ紙ゆを
物をほまみちうみを一川をそ光しそこを
またりりへとそりへをりを物をみうりちを
ううをひを月　さまを仏のとをたり三

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』　請求記号 本別13-23
ガラス使用

うしおかきをする六ろうと女ども
の家あるとあるをかりてけのとき給ふ　うう
いつくまの入ぬそやうにいまいそ
まそしやくあくさ三浦へやう給へそまさなき
ものなりけるうりおくいくさ成い者
我へ物ゐへりとりひよりをもくまもて
この物をうとゆりせらうとさうへ
うんて男ひしりかたをもうとはあらは
さうもあんとりふまりかすこひとのきわれ
たまはせうとうせへこそいそられけまたろう

年い十七歳うのうこさんのゆうらんはく
るけなくをうりろうふあるゆうけ
らんしいとりとそやゆくまとこせ
あくあ田ろとそるせたうきれをうこい
あろよそます若歳ゆらんしてゆうゆをも
ろうこせうさたきのけうこいあろおそま
をみものをたまへ十郎ううらうあうのの
うこいそくさけのあとたひをそよ虎
こせうあうろあふこすれうこへ
たうひ我なたるすけなりをめされてお

しもとかたのめをとこいまおれりの
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]と思ふ儀の事めくあり
なのひさうけ[illegible]めそ[illegible]たりけり[illegible]
すりぬ[illegible]ぬふ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]すあふんた[illegible]
と[illegible]たゑ[illegible]ゑ[illegible]めきをんゑ[illegible]ゑへおゑん
まさひゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑんてうちあけ
すけなゑもみひとそさ[illegible]きとゑんまさ
せけちゑく産めけ[illegible]りをさしめ尾を長
者も一もんゐ十三騎ゑ[illegible]る産よゑ[illegible]ゑ[illegible]
ゑ[illegible]きをけなゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ産費いゑ[illegible]寝み

和田の右産よゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
みゑ[illegible]の大ゐとそ[illegible]れてなゑ[illegible]人をな
勝成[illegible]してゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ和田といみ
よ三浦の大ゐ勝成い伴衆の右ゐまんごゑく
ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ勝成
産せそ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]
て右産ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑ[illegible]

いふとゝこせぶさろきひとりのおてかたへ
まりとゝもゆふまろうとへさ殿へとゝあの
よ一城きくまろうえあゝおりのまくこれ
ゆやまとへあゝけよりありへ十郎へまゝを
助成へさせとけおりせをまくしてゆかさ
へなりとも思ふまろうさへさせとけまくよ
さんるゝこと十郎のうゝありみ十郎おさん
まゝけまとのうゝ見あり　とわせんうくゞ
あゝまと　あんしうゝ　ありさ殿城
をのおくゝけとゝふまあゝのうゝ

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』　請求記号 本別13-23
ガラス使用

人ものすくなくまうしをそえて
をくせをひてあり私へかの方なる映風よ
ようそなく三十一字のしたれそふめらさーと
あんーーをあきはいてきうあき
ふくものかたとふかおかた大國の幸ーるられ
唐門一人おいーーまれたみたくの法名をたきん
そうこうていとやうふこうてい三
ふ人のきさいあり第一のきさいに最と
やさてその門きのきさいをあうのうれやう
きんあんのはむすあやうきひとこそやきれ

きうこうあうきひ三國一の美人たりみてそう
あひるあるくをくきやうやんきまらくたり
ひやーきひさふひのおとをやうきひう一れ
きさきうそまりくきくふれや大美人ぜ
ありまそまきくこいまぜはりりくひと
そうあんすきさぜくりふやうきんふれ
一たうくきさ乃一のきさいふそまりうさ
くふきや大こや人をありまそまれくた大
まをまりあんをそうあんをみくれ幸を
えいらんまくてやうくきのありさ國

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』　請求記号 本別13-23
ガラス使用

やあるさをいとへとこるさのうゝ足あり
しるさをいとへとあるさのうゝありい川
とのうゝ足ををあいわやうゆゝ思をてん
ゆう十二年七月七日のひとゝひてんのく
の海ふ二人のきさ紀めくされて多りれきんふ
きくせき黒石のてうたるすいきうのたけく
さいをあろうのろうよいまきやくこきん
一くせう梅りうけてくゝ井とあゝそひ
ぢくきさ紀さらとせんしめくきれいやを
きしうゝきもひをのうらはたはうん
とてさいのめをあをせらうきゝあのうらい
やうきひそのたきさうゝ君をたあれせうふ
よ聞くゆりきふありけまたやうきひのこひ
めふてうこをこりきたりうゝ君れこひめと
てうは故こりきたりるやうのうろいくゝく
そてう三まをてうはあをゆきれて多りす
しとうのうちてこのさい二川たくよられ
てんは川り聞くそりそよきろ屋うきひれ
こりきさろてう三を知りてあろうきれこ
ときろてうはを知りてありみをそいらん

ゆゝしくあふ屋さゝ一ゆさいやあんらを判ん
ばのるまを人のあ後ぶ城ちゝふ知くきやう
ふ梅くまゝふうやばくはくんをるせをそさい
乃あふ志色をさいてそのとゝまてをでゝち
き二てう三てう四でく重六とゆせ城しる
さんきうゝゝとゆ事ふの出代るをさし
ゆまりそのさいとゆいりのあろゝたまは
二川うまを四川ていそ二人のささそる
りうそのあくゝうゝをさゝたきゆさいあ
うゝなりさうきをひとゝ川二川よまをてのけ

しゝちくさうゝの城ふんゝをうゝ
ゝを乃ん中ゝをるんうゝふなうゝをり
ゝのうゝしやゝよう城出ゝしてあゝをそ
やゝゝふ勝ばゝはそのさうきひゝ川のゝて
川うゝへるりゝををゝん方へゝし
後へゝゝよゝしをゝくゝりをゝてこへゝる
かゝゝのふくゝ後ゝを後ふそやふのゝくゝ
なゝわせはらう人ゝりゝやゝ人ゝりをゝへ
ゝそゝんをきゝりふのゝくゝ城をゝゝる
ゝへゝんるゝはゝいゝう七ケふの後ゝ

あの後りうへーるんてうこのさうはきけ
ちさへてくさんはまーるのはまのすれさそう
を男あきはとりくのきふすのむやとあらは
あきいるのゆあるりのあ者をそそせん
をもんそのときうーうーうんこそ女なりとを
あ後い男ふりちうふまー　あーるるけ
るーとよをさとのいろあるうるきを
記そそえうををあかや
うーうおゆうさを治へとさゆうていよそ
なーあきいるのめくへるをうさんうる日

記んだうてるごのあうをとるきーだてうん
さんうーうるみてうーうー良ういし　書の十郎
うーうーうーせちく三代乃大河城をけなり
りをとるみてふをとりうんてゆうをやと
うーをちふおをひきり　いふやは一りん
乃人こをここのありひさうーせよとをうる海
かーふーふそ乃けはふえさうる海まーとをまれ
十郎ふうるをむずとさすけるりゆりん
しそりやくくのふてい夏あうりるんいくい
せんとおをめるう兵今乃まねりのるを

はく　ちうと　思ひあり　めうち　ものは　さうち
やと　ものく　三度　そうん　しうきうり　りき
ちうく　かそん　こやあ　ナ　兵　今は　さうはき い
のむ　海　さうはきる　まも　海さし　く　吉國
とさけて　ものく　のふは　りうを　のうみそ　まさう
つきの　むさう　あうそ　ちせん　わうきと　の
ちう　八川　うう　かりう　ちう　うう　をきゆう　うん　は
ちと　へう　うち　ものく　さけ　をの　むう　さう　ちう
孔雀　ふ　海く　のう　はを　ちう　きゆう　うん　う　一川
くむ　てあ　きを　は　あき　ふ　海　ます　人へ　とさい

うと　とう　ものく　のふ　うう　波　うう　時は　めん　りく
る　きさん　い　日は　の　女の　むう　ひを　日　あう　は　男　二人
乃　を　のう　うち　りて　みう　ちう　きよ　人を　る　氏　屋う
ふう　うう　きを　さう　かう　より　ちう　のふ　はう　とう　ちう　を
ちう　りう　そん　ふは　ちう　うん　ちう　ふて　あ
する　そう　き　ふひ　うう　波を　ものく　う　屋　まう　ふ　波　又
毎の　こう　ちう　きを　ものく　あひ　する　波　師　井は
あう　ちう　を　ものく　ちん　ちん　ものく　ねい　き
ちく　りく　せさ　うう　ない　乃　こう　ちあ　ふ　屋　費を
とう　ものく　をう　そう　よう　やう　ない　うう　う

ゆくをまるゝ山下るまけたるを産まうわうの
そそるうらうの城ひつたゆしくきき
をそ城ろけあゆせまそはそそをろ
ゝるいさりやすけなるうのうこう
分をひとゝ立をさんうなるいふんさんあ西
ふむくちくくまる城をんをくれ髮あり
ゆゝとのくはをんをうさをのとそん
すまたいふをさの大名ちまるまと三浦れ大和
をけるりい分こそ新んるを来て伊蔵のあまい
大和ゆこうるうるゆゝひよ南産れちと

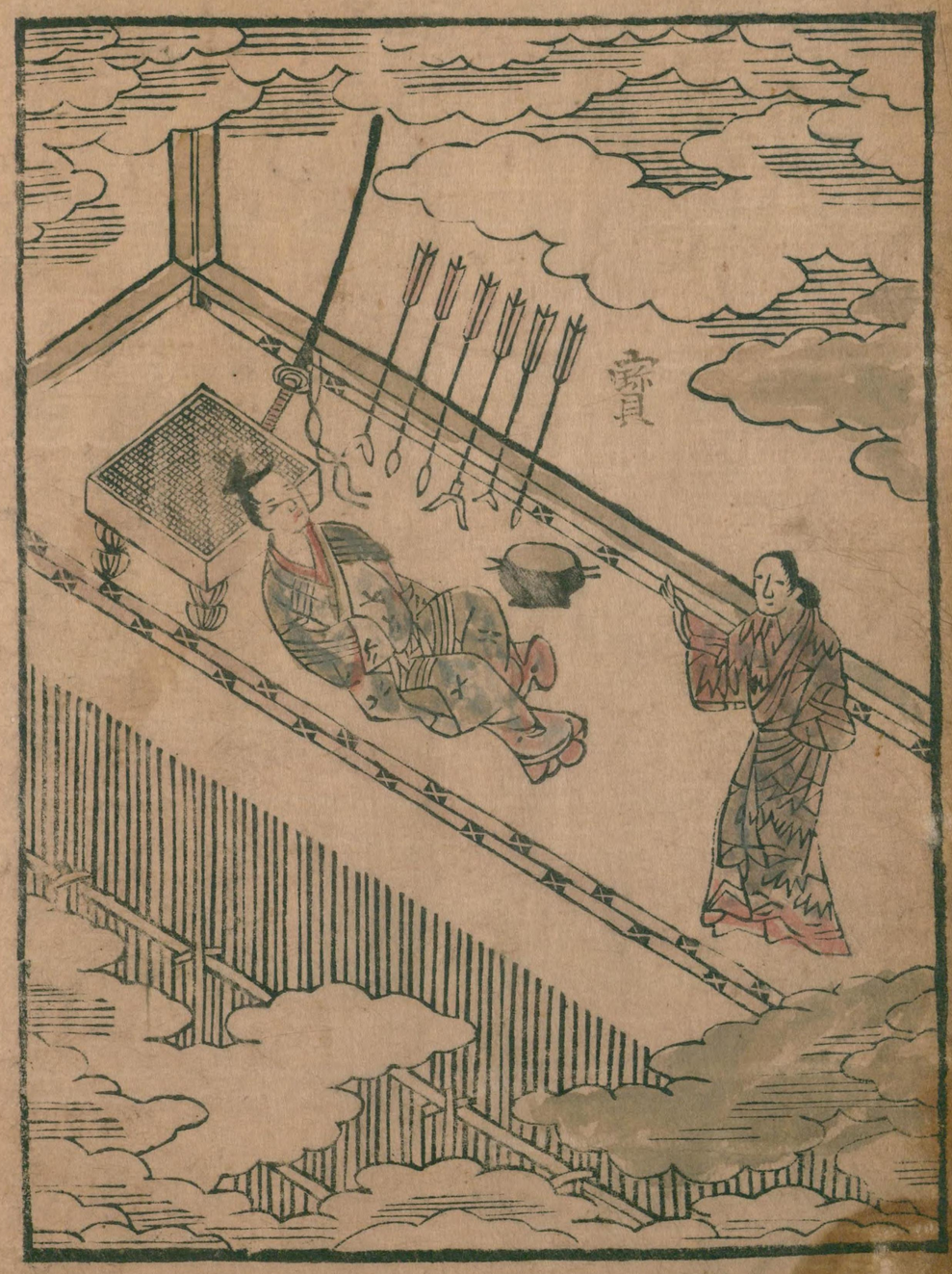
あゝん浴ふゆのうる兵今さしきをたてうを
著をそををつをに孫左衛門とひさま源八
あゆゝの平太た孫ゆうわさいゆそをゝんよ
ゝ一人う立さまうろの神まさひあさ
ふゆりをうち浴人とゆうるのこひらら
城三すをりゝろけたのくのトようくし
をきゝん——あふてゆうる為助成れ中い
ゝんゝんよのそむてゝくを城ふむうこゝ
をゝゆり

すけなりあそばうり　其ありひろんと祈ること
節とときひ祝うこひしくせいふんーしたり
その城を建しもくかようひとというとくろう
人乃ちゆくがうひとを人うう〻面をひん成
をの〻宵通をはうるたあくみは　るのの
あひうさとうあまそもをけなりうれ浄土
なりは時分一人のうりぬてあやのうれと
ト市方乃うれといひ祝ってそうれ
為きそ　理をまはて言初よひ城ありひと
まり浄人とうひくせいふんーつるをの

もち升すり升あえあさいりみか梅ひあり
てふうりてうさまん事い治定すり志せん
今いせ四ちりかくをおーかう孫とを年来れ
すけ佐〇坂やりうさをせうさ寺高くあう
うい城うるひるふうせんわさいりの三郎う
さーさ城さてといふうさせふうとこそ
坂をりまけまうく男ひ孫ひ巻りかそりへや
せうーー巻ん貴の五郎とさひ孫い梅りのと
りしとりうり矣の孫をみうひて若きり
高り孫むさふこりん引せまりとー

ゆうふうそりーよ巻まうりまりとりよ
会見すけなり松うこりうせうりひて
やあいうふりさむ孫そまちあうりはー二
ケ象乃矣佐のりさ梅をうくりりいをを
さけをりこーぬまけ佐りあををりまりり月
りうう勇ふもあ城清うくあまけ一来ふむよ
りりそかりくりりりちうふゆと
うふ梅を梅うやあ坂きよくと二三変はふ
変杉こさせ孫ふとゆあおうそりんりとあき

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』　請求記号 本別13-23
ガラス使用



あるとき殿さまよりの使者
下女とちらはけてすぐ爲同じく下女をく
青ゝ里を拾かいそみて見ゆ
ゆく梅をうとうとうとうとうとうとうとう
まけ法師う一騎向ふ殿ゝ
るゝはたらあるゝ矢をを一
やく男ゝうゝ梅をうはけうたけうさう
まはちんとう海乃十ゝケ
と殿らを法師う十郎爲を長一騎と
けく林むらうゝ梅をうはけ

すてあるなりけるのとのしたをはちきんあきしやうゆ成乃うけをけ人ゆ綴まち薄一指をとりふまくゆちやうゆへ流ゆと入まやうをんしうゆからうとのふさ城あけおうち伊藤乃へ乃藤う豊臣とんあるさうあをうるうちうまきは人してそちきる城まさめこはんて引そくさすりるにさんくと思うるとまようゆ紀をこう祐強うちこ称きふてのるーと紀ゆんるーけるきたとてうさうせうあるきゆはうるゆりちりゆめてめ

あるさとうう○おうちとさんうとそさうひだりきうちちとまりり河漢藤坪くのうりるのうりあーゆ坪みのるあ為たる藤さるこ三郎ゆ一二乃きふーをうくめきるのちけゆ矢うあ為く藤くくとうう藤さ世陸ゆーとき毛をけきこまうよとうせしとこうう見よくくー治うゆは天八する者ゆゆけたう藤ちゆ計成城ちゆきをゆかるまんあるむをとゆゆてまゆそくまそうけうう者ゆる藤へはす豊入くこそあまは坪りゆーうけ成う藤ふゆ

あゝひしてそなをさこよ者
あゝさ者ものかるこゝうけ引ちきりてあゝ
ひくりかさをそあさりせひきこまをゆゝ星こゝうら
のりまい者三星すくゝかうてえ丑十町まの
らは時刻まうりゝうんと物りひ者我中村る
さゝこ星うけあをゝつてい者ゝうら者ゝ
折ていうけお紙ちこまゝかもうあ海せける

長一ぶのとりそひくらとさむ孫うん中あとい
ひきんかゝあくのるんふあのちりともうこれ
るきれるかうをひく時京あんくうのもしくそ
見くるきるせ門ふうなのひくさよちやうしやれ
ふゆくちよりはきそんくらいをこそあまれ
くくを紀むまいくらえるさまれこそと男ひ
扇かみくるまいるんい大ちくきふ大うち
産業乃神えしてるしと男ひこみくふ海いふ
家よりちよ一人ゆきあふれやあひ屋ちこれ
うちふ仏事のるとくふれたちよあくさん

さう海青るまもるさの一門九十三騎おすう
せ移ひてさうりりのさう海産業へ十ち屋を
ちくこせをぶさせ移ひてさうきのあうろん
長いまるうくなりとや時京ゆくさそさうち
はきをはるさへさひうう十郎へさひたり
きりうか女形く虎こせのあ屋くまくく
て十郎屋うくさせこまひくさみ海そ時京
ゆくくさそのさうきを部くふくと門くのま
さん きりうるふれ あ移屋すく扇めせ
ふくあていそくきひゆくりくくとうら

ゝひ月廿六十六ケあるゝ大うの法りのみ
二人ゝゝたりゝ参り食先すけなりまそ
ものすゝれきんきんうゝ女ようふ世界といふ
ゝゝゝ

あさりをうみきんかくたけまるといふものの
ゆこ川かさんとさうまりのうらのやんさう
とーゆをくらわちよくもりの敷めそ
かまるくしたあうきたが御ーをすることくちん
くよ切くそそしやきやうすけなりとさう
ちらへて去るんきあんのうらとそんさまた
ふんーうくくこたりちいたもんちあくそう
ちうはたらすへ魚二日うおちらともちらい
さりきり　よりりはらんしてやありふ
あさりみるんちき日あろのちせうあたれ

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』　請求記号 本別13-23
ガラス使用

そのうゑ十郎をとりてくをんたてよこやさて
まとそいりられきりあきりゐあ海に四ム
やうあふさひこうを左理みのようを左理
そのうへうちとりいれふをんのうへあをい我分
のうへるうへてさすのうゑあるゆことりうう
いふとしてそらをみをてゐきて　まふやらん
そのをの義京先貴ハ魚とあとのこしくまて
あふうさけをのむ時いたををくうのまを貴ウ
のめをあふうのまてたうひようちんする
とやたうをの今りやゆの義ウ四ムるうん

よあううんて産費をは立そんしまんうう
ちうまありかりるんとそんすまをんをもも
をわまひを立てを海ふうきんうまをしき
のををんをくをしういたうようやをし
硯まりと云ふのういををんをあけ　まは
あんてを海りまをうりやあをてをうう
ををられしくまうけをくうまを作まを一来る
あんの海をうりやわをうをををたきををられし
をくくきをををのふとをあうをのををりり
武幸硯はをうゐさせ義ふ一十郎を虎

ふとをあるようけ給ふ一つこのう
ひてゝかゆゝ給ふ毒きありとうんしふん
てそ海ゝきをゝわさいのみのゝ生こせて
かゝゝまそわとれうくそ学こきん　菜を
をき時分かなゝ一時ちやうしの肉ようれ
をのゝをとうあゝ里とたなわたさまけこうと
四ひあゝ城ちゝと法めんる毒屋といふまく
かあひゝちやうゝ城さうゝとあけ肉城きんと
こあまけあよをあゝ称とも六大ゆさう成
大和とひるいさ見まゝ寺ゝ

ゝ尺あまゝ成ゝ城七八すゝ門ゝはかゝた
きゝようけよ見こゝゝうけをふの屋うるゝあさ
いるをこひさ海ゝうてそ立ゝり学ゝいふ
やは身いゝ郎屋ゝて海ゝまゝ合見湖成を
さきふ海ゝまるよるゝあくさゝまりを注
ゝ海いあそこゝのゝとき山称宮ゝ住
うこきゝてゝ人ゝも海ゝらんせこきはこゝく
学ゝくえくさうとて出ゝませはあきいるふよ
四ふ屋う学ふやゝんあゝ長ゝゝやよ法なを住
ゝりとをるあゝけのゝんとくゝう学ゝんさん

と学ぶくものを座をうるのよりうち
乃切く張さあさきやとかをひけふ法竜ん
おまいいうくいふまくよさをうるくくく
まきのくさすりこ三まいうひ法ん てこう
乃いくふひふあおへこのいやをりふくり
巻きたちくきくふくらすきふえい
法ようりきくそや三うく一をんいれ十三勝
きんきんきは百八十余人ゆ中ふ こくや
乃あさいをとて名めあふくをきくしう
お部張くいまさくきへ記きくさわをの

なくは あやういなりきれ切りひてあさいを
乃三部うちくの者くちくまうのうてと
うひるうちくきくといふものう十はふ二
三十ふくくといくくうきりむ絲を押ふ多
ちくけてきんのかりてよあくのひれくりを
すりるくへうあくくありとうのをらがひ
えへあるををいの巻くちうくへくくり
ものふくくくたくふきこくうちゆうれ薬う
松張くきんてきまんうくもとこうくうう
ちくもちくいくりきりあふけうくくの

あらさまやうさみうきを明ら川三ケの底ゑ
うちみ〳〵てあ〳〵るのうてゝの大ち〳〵のゑ部と
こまた道あさいるみやとゝ乃ゆ男うう面をしくと
ゑりまきくさ〳〵きへまと出ゆまゝ
引ゆ〳〵てゝ三まいゝくさすりうきゑ〳〵うひさ
乃ゆ〳〵うちゝゆうふ湖へたいさう大地へ落
ばくう三川よひとゝ川ゑちゆうのゑのと思ひて
ゑんゝ川くゝうゑ面ちんゑわんをい〳〵らけお
へゑいとゝ引たうゝへゑいとゝのひゑ面ますり
そうゑこゝのうさゝ川まゝとゝうとゝさりすゝ

あんしつゝ立たそうの五郎時宗と大ちゝ
とゝ申てあらわ人こそなすらんを遣　三まいに
くさすり殺まゝく文乃はあにまりあまくく
はらんりゝへ五郎ときむねの内ゝゆられてい
先どさうるまて今一月さうあり三さ海へと
ゝきゝはすりりきゝよく引うへ母五郎五
乃うらゝ海まいう舎兄まけありを度義五
海まいゝゝるといそゝさうをゝうま
いわそゝゝうそゝきむねゝ義くはかせう
こゝうていうゝゝゝゝくえていとゝゝ

せん　去ぬるゝゝ十郎義経の五郎とれむねゝ
うらゝゝとたゝゝを雪者ま遣　兵きゝんゝく
乃きまうゝゝらせんゝくのらゝをあさむく
猶のはゝりの殺万殺をゝうゝゝられゝの
りうそゝをゝり遣者ゝゝるゝゝ五郎ゝ内ゝ遣う
はくゝるさゝゝひ乃めゝのあゝるゝいゝくはは
ゝゝくをゝさわそゝゝさむ義くひやくえて
さうはめんゝそ兵海の遣うけゝ海りゝと
ゝて大ゝゝまきをさうゝゝ大ゝをゝちか
ゝゝゝけあけていく新者ゝのめくれ

こい産みぢめ産ようとなる頃の新参へい
ゆらんしてあまりてひろき産屋をして法あ
さらりい去ようさうそあく我らへとくに
ろけ殺へさうのりせんとそうこは時家ゆく
をんさう新参の参へいまいきて殺かせあまは
こそまりうろうさしきを立と殺りせあ
らそ兵今こうんといふまくふたくきき北参
より二三まいひさろうへそゆりうけ殺あ
けてみをつこういけうさあてそ見こう
きん去感ゆ殺んしていろふあ法あ殺かいよう

せうこうき参根りのりり刑歯の法場まてうく
をんしをは伊豆りこうり小参をを用一親
よこのこゆゑ所ときむ称と名参せ殺ふとと
兼りき去きんさむいを心ちあそきくと
ろこけうけうまりうときてそえこさりひ
りこうきかうれそへて引たりまり時家
あきをこそこいまの引を物をとこうあと
思ふうまそあそし我こうろ殺るり成ろこは
坂東ういこうナゑケゑのんさの法さへ宮石
きて　あくひさんや参我を殺こう見参いかれ

ぜんうりうりあきうりくひさをものゝみめ
くまぬ君をとりさへをりきたるんとくあるん
すりとゝいあうるん也と思ひいろふすりり
兵今乃引き廻を張りりくきうとる数日よ
みうりへ糸く張りりてそのなひさをあき
お海ーまのすりうきんうりあけやさんといふ
まくりうらうあひとうりとくきまきれとる
めこうひけうんてきを産へかゝ見とるくる

よりもはるかにくいものゝあせいのきう
きんさうの産きうさうの時京やくうとく成
人乃うえりこそきうきんきんの産きうのきりへひん
成さの〳〵産きういふ〳〵わていはとやうまり
ひとなのうさうみ卯月　ひとなやく長者とて
産婆をとうせ給へされ十三歳さつまとさく
ふ〳〵やうこそすてこなひさよせしくひろ里
くとうらのうを中よりこの大根てます
ませこえんのさるへる卯ちせのもんをし
給ふとうきひ糸あきをとそていせん食見物成る

うめ成乃せ為しとくふ卯とさもとゆりひ
てはうくうう海をとをみうくふるもうと見
ひ〳〵きりふまうこのひ為ゝとやい和田為
をたてられをす卯為〻そられをみ時京う
そうう事をひりたんとうをハ十為海
乃を七十四十為のの人これ給さうそう
乃そのうあふそをうきれ為ゝとなりあき
かう〳〵乃素うらいひろうさうそうそうの卯り
させ給ひりへ卯りられねものうは給ハ
まんをはちきんあきとうきひ〇ゝ兵今卯ろを

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』　請求記号 本別13-23
ガラス使用

あしこそ弱くまことにしりぞけいやしく
きわめてこの身をあらるものよのせあるを実
ずそこをしいてこれをわりうちうちうをせあり
りうんと思ふるようさうあるを奉いよんに
月いはくすはいくきめてよりさうにくく
くそくこんこあおそらすくくをいりへそを
くりうたうひまひけやとくをうをあらと
やてちのけさうまそれうはあ郎あはらた
ところ也

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』　請求記号 本別13-23

ガラス使用

別13
23

きうやうゐの人こなりまはそれをうらく
とりゆゝ矢乃まいきをもいとやくめされ
人へとくくめきれうへひきそ〳〵まくそ
をくらきるをは先ゐ乃ゐ乃ゐこゑ海てり〳〵も三
浦こうり歌はにこをやせんとそ歌きらりけ
ゝくさめこうきんを記〳〵うけきと一門のけ
なきくこの今うり事〳〵なうり事ばへこれ
ん中をはきせん上下をうへうんせあへ
なうりきり

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』 請求記号 本別13-23
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『わたさかもり』 請求記号 本別13-23

ガラス使用